

福井県支部だより

宮崎良一

平成 31 年 9 月 28 日の日本透析医会常任理事会にて、福井県透析施設ネットワークは支部として承認された。これまでの活動と最近の本ネットワーク状況につき報告する。

1 福井県透析施設ネットワークの設立

福井県透析施設ネットワークは第 1 回総会を平成 20 年 5 月 17 日に開催した。その際会長は、当時福井大学医学部附属病院腎臓内科教授の吉田治義先生（現在杉田玄白記念公立小浜病院名誉院長）に決定した。この時副会長 1 名、監事 1 名、理事 5 名、顧問 1 名を選出した。事務局は宮崎良一が担当となった。このネットワークには福井県下のほぼ全透析施設が参加した。設立時には、会則の作成を行い、会の設立目的は透析医療の向上発展に努め、各種事業を行うことにより地域における透析医療に貢献し、併せて会員相互の親睦を図ることとした。この目的を達成するために次の事業を行うこととし会則に定めた。

- ① 災害時のネットワークを構築し、対策強化を行う。
- ② 感染・医療事故への対応等、透析の安全管理を高め、透析患者さんがより安全に透析を受けて頂ける環境を整備する。
- ③ 透析施設間の連絡協議を行う。
- ④ 関係官庁、保険審査機関及び医師会との連絡協調をはかる。
- ⑤ 定期的に総会を開催する。
- ⑥ その他前条の目的達成に必要な事業を行う。

その後、ホームページの作成を独自に行い、ホームページには総会で承認された「災害時対策マニュアル」を掲載した。日本透析医会の協力のもとメーリングリストを作成し、福井県透析施設ネットワークとしての年 1 回 9 月に災害時情報伝達訓練を開始した。

また第 1 回より福井県透析施設ネットワーク学術講演会を開催し、平成 30 年までに、災害対策関連 6 講演、感染対策関連 3 講演、医療安全関連 1 講演、被曝対策関連 1 講演の 11 講演を全国の講師の先生方をお願いした（表 1）。

2 東日本大地震時の対応

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大地震の際には、日本透析医会の災害時情報ネットワーク

表1 福井県透析施設ネットワーク学術講演会過去演者一覧

第1回	平成20年5月17日(土)	「災害関連」 新潟大学大学院医歯学総合研究科第2内科教授 成田一衛先生
第2回	平成21年5月16日(土)	「巨大災害と透析医療～その対策と進化～」 赤塚クリニック院長 赤塚東司雄先生
第3回	平成22年6月5日(土)	「災害時の透析医療ネットワークと活動報告」 医療法人社団誠仁会みはま病院臨床工学技士 武田稔男先生
第4回	平成23年6月4日(土)	「透析液清浄化に向けて～微生物汚染状況の把握と管理, 臨床効果との関連」 医療法人秀和会秀和総合病院診療技術部統括部長 芝本 隆先生 「大規模地震災害と透析医療 上越地域災害対策構想～NetworkからFramework作りへ～」 新潟県厚生連刈羽郡総合病院内科部長 倉持 元先生
第5回	平成24年6月9日(土)	「大災害時の救急医療～感染症の救急診療も含めて～」 福井大学医学部附属病院地域医療推進講座教授 寺澤秀一先生
第6回	平成25年6月8日(土)	「東日本大災害における透析医療の脆弱性とその対応～常に備える貧血治療のすすめ～」 東北大学東北メディカル・メガバンク機構地域医療支援部門統合遠隔腎臓学分野教授 清元秀泰先生
第7回	平成26年6月21日(土)	「透析医療に関連した感染症と院内感染防止策」 東京女子医科大学血液浄化療法科教授 秋葉 隆先生
第8回	平成27年6月20日(土)	「本県における被ばく医療体制について」 福井県健康福祉部地域医療課 坂本康一先生 「緊急被ばく医療について～正しく知ろう 被ばくと汚染」 福井大学大学院特命講師 小淵岳恒先生
第9回	平成28年7月23日(土)	「血液透析患者 HCV 感染ゼロをめざして」 藤田記念病院内科 宮崎良一先生 「東日本大震災で学んだ教訓は活かされているか」 東北大学血液浄化療法部部長 宮崎真理子先生
第10回	平成29年7月29日(土)	「災害時人工透析提供体制の確立」 くまクリニック院長 隈 博政先生
第11回	平成30年8月4日(土)	「福井県における2018年豪雪災害」 藤田記念病院内科 宮崎良一先生 「平成30年2月の大雪について」 福井県健康福祉部地域医療課 森下 満先生 「知っておきたい透析室における感染対策の基礎知識」 下落合クリニック理事長・院長 菊地 勘先生

を通じて、福井県下の透析施設の情報を提供した。また事務局は、県下の透析施設の協力体制をとりまとめ、日本透析医会本部に連絡した。当時福島県からの避難の血液透析患者さんを受け入れる体制ができていたが、実際には受け入れはなかった。

3 平成30年福井豪雪に対する対応

詳細は本誌2018年2号に記載した。平成30年2月5日から8日にかけて、福井県では1981年の「56豪雪」以来37年ぶりの記録的な豪雪となった。除雪は幹線道路が優先され、生活道路の除雪は後回しとなり、自家用車で移動しようにも多くの車が雪で動けない状態となり、動けない車が交

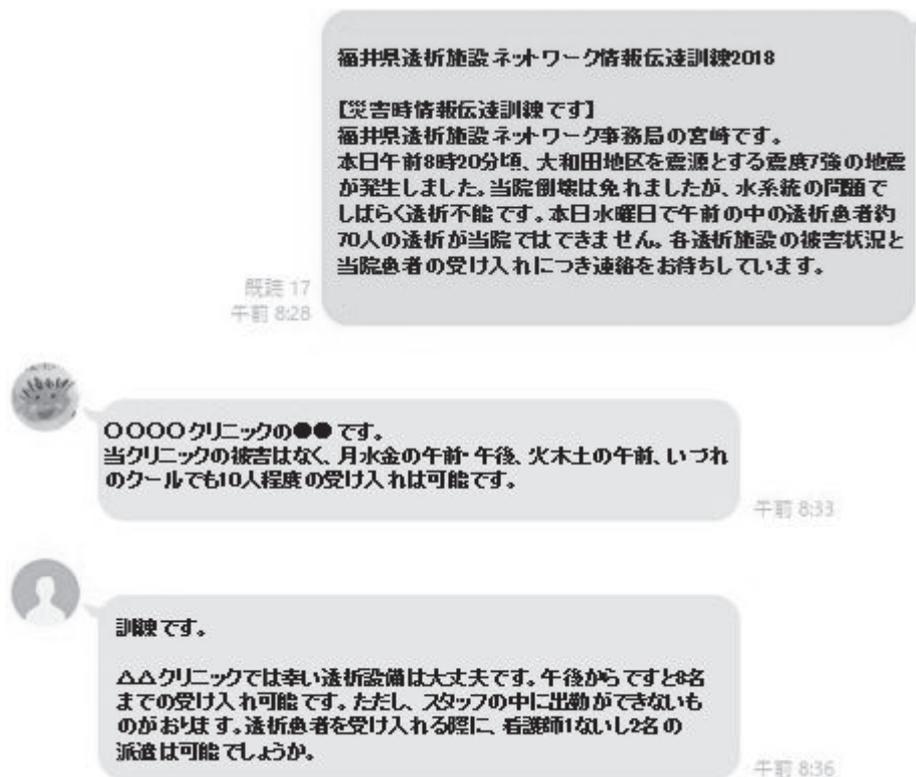


図1 ラインによる災害時情報伝達

通渋滞を招くという状況で、短距離の移動も車では普段の5倍くらいかかるという交通麻痺が約1週間続いた。今回の豪雪で被害を受けて透析ができなかった施設はなかったが、交通網の遮断により患者がそれぞれの透析施設に行くことができないという問題が生じた。また施設によっては駐車場の除排雪が進まず、病院まで自家用車で来られても駐車することができないという事態が生じた。

この豪雪により予定の血液透析ができなかった患者数は、延べ数は全体で243人であった。予定透析が不能であった患者は、透析日を翌日にシフトするか、週3回の透析を、週2回で対応した。豪雪関連入院数はほとんどが通院困難のためであり48人であった。救急搬送患者数は、12人であった。歩いて通院した患者数はのべ164人と多かった。今回の豪雪に関連して死亡された血液透析患者は2人で、1人は自宅近くの駐車場に置いてあった車中での一酸化炭素中毒であった。他の1人は透析が遅れて高カリウム血症で死亡した。その他の豪雪関連死はなかった。

4 最近の本ネットワーク状況

平成30年の福井豪雪災害を経験して、同年の日本透析医会総会に参加して当ネットワークの取り決めを変更した。

- ① 災害時のネットワーク発動基準を従来の震度5弱より6弱に変更。
- ② 衛星携帯での連絡は廃止。
- ③ 災害時の情報伝達は、従来のメーリングリストに加えライングループでも行うこととした(図1)。現在ライングループには、全29施設中15施設、22人が参加している。

5 おわりに

平成23年より福井大学医学部附属病院腎臓内科の岩野正之教授を当ネットワークの新会長とし

て迎え、災害対策マニュアルも前述の活動を踏まえ第3版に改訂した。今後新会長と共に、福井県下の透析患者さんの災害時における諸問題に対応するだけでなく、透析医療のさらなる発展に尽力していく所存です。